

【表題】片発不作動時の上昇における偏揺れ角 0 の操舵要領について (C 90A) 【論文】

【著者】坂本 真

【発表】航空大学校研究報告 R-56

【時期】2003年12月

【概要】

双発機が片側発動機不作動状態、に陥ったとき、操縦者は本能的にバンク角を 0 にして旋回傾斜計のボールを中央にしようとする。これらの操作は通常の飛行状態で偏揺れ角 0 を示すものであるが、片発不作動状態では偏揺れ角 0 にはならない。このあたりの事情については「軽双発機片発不作動時の飛行特性に係わる特別研究」や「双発機の操縦と性能」に詳しく述べられている。また、バンク角 0、ボール中央の状態と作動発動機側にバンク角 5 度、ボールを同じ側に 1 つ分ずらした状態との比較実験が笠井、梅村によって行われ、後者の方が上昇性能が優れているとの結論を得ている。

今回これらの研究をふまえて、本校訓練機ビーチ式 C90A 型機において片発不作動になった際、偏揺れ角 0 を得るための操舵要領を学生にいかに関教育するかの目安を明らかにするための検証をした。